

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401500		
法人名	有限会社 春陽		
事業所名	グループホーム 福田		
所在地	長崎県諫早市福田町3346番地5		
自己評価作成日	平成 30年 12月 9日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 1月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりと その人らしさを 大切に の理念を基に、入居者一人一人に対して個人援助を行うと共に、その人らしく安心して過ごしていただけるよう環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

諫早市中心部に程近い閑静な住宅地の一角に位置する当ホームは、開設13年目を迎えた。ホームでは、昨年度より重度化や看取りに伴う入居者の入れ替わりによって新たな顔ぶれとなったほか、身体介護を重視した従来の支援から認知症の状態に配慮したケアに力を入れて取り組んでいる。可能な入居者には食器の手入れや献立の計画など家事の手伝いを取り入れ、それによって入居者の自ら行える力が十分に発揮でき、入居者の活動の幅に広がりを見せている。職員は入居者と関わりを持つ中でその方の日常生活や活動の支援について話し合いを行っており、家庭的な環境の中で入居者同士が互いを思いやり、支え合いながら趣味活動の継続や生活の中での自分の役割などを見出し、生きがいのある暮らしが実現できるよう努めている。また、職員間のチームワークを大切にそれぞれの得意分野を活かした支援を行い、入居者とともに暮らしを楽しむ様子が窺われ、今後もますます期待の持てる事業所と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム福田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し入居者それぞれのペースを壊さない声かけ誘導を目指している。その人らしさという事を常に考えながら個人を尊重したケアの徹底に努めている。	ホームでは朝礼で理念を唱和し、支援の方向性について職員の意識付けが図られている。職員は理念をもとに入居者の「その人らしさ」を引き出す支援に努め、理念を唱和することの意味合いや大切に考える考え方の浸透が窺える。そのことによって介護方法や関わり方の柔軟性へと繋がっていると見える。また、その都度話し合いや確認を行うなどして理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや行事は夜間や早朝が多く、入居者の参加は難しいが、ホームの行事等に地域の方の参加を呼び掛けている。日々の挨拶は定着している。	ホームでは、自治会への参加や地域の方への日頃の挨拶、ホーム行事への声掛けを行うなどし、地域の一員として交流の機会が持てるよう取り組んでいる。地域の方からは介護についての相談も寄せられており、地域での継続した暮らしの実現に向け、ともに考える姿勢で関わりを持つよう努めている。	地域の活動やイベントへの参加について、ホームは住環境上の理由や職員の勤務形態の都合によって困難な状況にあることが窺える。防災の観点からも更なる関係性の構築や運営推進会議の活用など、地域住民が気軽に訪れやすくなるようなホームづくりへの取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との話の中で、悩みや相談があった場合、事業所として出来る事は何かを考え、前向きに行動できるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業計画や活動報告を主に行っている。出席者からの意見や質問に対しては次の開催時に検討した結果を報告している。ホーム内にて開催している為ホーム内の様子が見えるようになっている。	定期的開催される運営推進会議では、入居者の暮らしぶりやホームの現状についての報告がなされ、参加者からの入居者への職員の関わりや対応方法などの問いかけなどにも誠実な対応に努めている。今年度は熱中症や感染症対策についての事例を具体的に示し、参加者への理解が図られている。管理者はホーム運営の透明性が図られるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方にも出席していただき、わからない事や疑問に思った事は相談にのっていただいている。	ホームでは運営推進会議を通して市担当者との信頼関係を築き、ホームでの工夫や努力していること、悩みについての情報共有に努めている。管理者が諫早市の医療介護連携推進会議の委員を務めていることから行政との接点も多くある。ホーム・行政双方の役割を理解しながら協力関係を築く取り組みがなされていることが窺える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で身体拘束ゼロ委員会を設置している。会議の際全職員で、日常のケアの中で常に身体拘束にならないかを考え実践している。	ホームでは身体拘束をしないケアに取り組んでおり、毎月身体拘束に関する目標を設定し、言葉だけの目標ではなくジェスチャーを使って月目標を体現し、意識を持った関わりに努めている。職員は入居者の行動と心情の理解に努めており、現在拘束の該当者はいない。また、定期的に自分たちの支援が身体拘束に該当する言動となっていないか常に振り返りを行い、毎月目標達成度を互いに確認しながら次の目標設定へと繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、その内容を全職員に周知した上で委員会の開催、月間目標の設定を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し、必要な時は活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、しっかり説明し理解を得ても、家族の意向は変化する場合がある為、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状意見や要望はないが、意見箱を設置何かあれば記入していただくように声かけしている。市のさわやか相談員の方にも来て頂き話の中から意見を聞き出してもらっている。	職員は、家族の面会時に入居者の暮らしぶりや日頃の様子を伝え、気軽に話し合える関係づくりに努めている。代表兼施設長は家族の視点で予測される悩みや不安を事例に出し、家族の心をほぐしながら意向や考え方の集約に努めている。ホームでは、気づきはその都度解消できるよう双方向的に良好な関係づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り意見を聞き出すようにしている。会議や朝礼時にも意見や考えを聞き出すようにしている。	職員は、互いに何でも話しやすい職場づくりを目指し、申し送りノートを活用するほか、朝礼や日頃の支援の中で話し合いの機会を多く作り、小さな変化や気づきの共有に努めている。代表兼施設長は入居者への柔軟性を持った対応の充実を図るべく、職員には積極的に外部研修への参加を勧め、知見や体験の共有に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表も職員と同様のシフトに入り職員全体の勤務状況や職場環境について会議や個別に話し合いを行い各自のやりがいや向上心につながるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の参加を呼びかけ、多くの職員が参加できる体制を整えている。各個人の得意な事や勉強したい事を把握し、能力の向上を図る努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加し他事業所との交流をもてるようにしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訪問調査時に本人の状況を把握し、本人との会話のなかから、要望や不安に思っている事を聞き出す努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が求めている事を理解し、入居者の状況や家族の意向等、相談時や訪問調査時に聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、当ホームの利用だけでなく、他事業所や他のサービスの利用も視野に入れた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が第二の家族という考えを持ち、入居者に寄り添い和やかな生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの各入居者の生活歴や家族関係を理解し、行事等への参加の声かけ行い一緒に過ごす機会をつくり、良い関係が出来る様に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	各入居者の生活歴を把握し、面会や外出の機会を絶やさないようにしている。	ホームでは入居前の暮らしが入居後も継続できるよう、家族と協力しながら家族行事への参加や友人・知人が訪問しやすい環境づくりに努めている。職員は自宅と同じように寛げるよう訪問者を受け入れ、面会の時間や家族の宿泊、自宅への外泊・外出などの申し出があった際には柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋で過ごす事が好きな方もいらっしゃるが、なるべく皆で過ごす事が出来る様に声かけしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡を取って、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者それぞれの望んでいる快適な暮らしや思い等を日頃の会話や表情の中からくみとり、職員全員で把握している。	職員は入居者それぞれのこだわりや大事にしていることを理解するよう努め、毎日を明るく過ごせるよう言葉掛けに配慮し、個性を大事にした関わりに取り組んでいる。また、時間をかけて関わることで入居者の人柄や暮らし方への理解を深めており、入居者の笑顔を引き出しながら主体的に活動できるよう日々の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査時に家族への聞き取りや、入居者との会話の中から情報を集めたりしている。又、記録に残し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を把握し、小さな事まで見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者と話し合い目標を設定している。家族に説明、同意を行い今後の希望を聞き出すように努力している。	ケアプランは、入居者や家族の意向を踏まえた支援内容となっている。今回、ケース記録を踏まえたケアプラン書式の改善が図られ、プラン内容が入居者への負担となっていないか記録の中からも確認ができ、ニーズや課題、職員の関わり方に関する情報共有にも繋がっている。記録の書き方については職員の経験によって差異が生じていることもあるが、担当者がその都度理解を図るよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化は、小さな事でも日々の記録に記載し、職員間で共有できる様にしている。一カ月ごとにまとめを行い介護計画の見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時の送迎やホームの面会時の宿泊等、その時々生まれるニーズに出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察署や消防署より理解と協力を得ており、ホームの近隣の方とは顔なじみの関係であり、協力が得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に診てもらい、かかりつけ医と連絡・相談しながら、心身の変化や異常発生時に適切な医療が受けられるようにしている。	ホームでは入居前からのかかりつけ医への継続受診を行い、主治医や医療連携担当看護師と細かな体調の変化に注意を払いながら入居者の健康管理に努めている。入院となった場合も、体調が安定し次第主治医と相談の上で早期退院に繋げている。職員は日頃から内服薬の状況と入居者の体調に注意を払い、かかりつけ医へ服薬状況の相談を行いながら適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携して常に連絡や相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と情報を交換し早期退院に向けた支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針について、入居者本人、家族と話し合い、共有するとともに、近隣の方々へ急変事や緊急時の対応について説明しその際の協力について了承いただいている。	ホームでは家族や主治医の協力を得ながら看取りの受け入れに対応している。職員は、食事形態や過ごし方などその都度変化する入居者の体調に合わせながら、本人や家族の意向に沿ったものとなるよう取り組んでいる。生活の中での穏やかな看取りとなるよう住環境を整え、家族宿泊など受け入れながら不安に寄り添う対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内の勉強会で繰り返し勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を行い、入居者・職員共に訓練している。消防署や、消防設備会社立ち合いにて行っている。	ホームでは定期的な避難訓練の実施に加え、リコール製品の確認やハザードマップ及び地域での過去の災害状況を確認し、入居者の状態に応じた避難方法や備蓄品の整備に努めている。また、風水害の発生に備えて複数の避難先や避難経路を設定しており、入居者が安心して過ごせるよう柔軟性を持った対応に繋がるよう取り組んでいることが窺える。	ホームが2階建てという構造上、避難誘導の際の地域からの協力などが必要な状況であることが窺われるが、周辺住民や地元消防団への訓練の参加依頼に留まっている現状にある。ホームでは今後も声掛けを継続していく意向にある。また、現在防災訓練については未実施となっているため、例えば風水害時における対応や連絡方法の手順の確立や訓練後の職員の振り返りを次の訓練に活かす取り組みなど、入居者の安全確保に繋げる取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重した支援を行う様心がけている。呼称は基本的に名字で呼んでいるが、状況により臨機応変に対応している。	職員は入居者一人ひとりの性格に配慮し、入室前の声掛けの仕方や関わる際の姿勢など、丁寧な気配りの支援に努めている。また、日常で関わる姿勢や言葉遣いなどを自分に置き換えて振り返りを行ったり、相手に不快感を与える姿勢などについて職員間で話し合いながら、尊厳を大事にした関わりに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者にわかりやすい言葉を選び、職員側が決めた事を押し付けたりせず、本人が決める事ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者の体調や状況にあわせ、各個人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分が着たい服を選んでもらったり、好みの髪形や色に出来る様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者とスタッフが同じテーブルで同じものを食べ、楽しい雰囲気づくりに心がけている。また、食事の準備や片付けの手伝いもしてもらっている。	今年度は、入居者の入れ替わりに伴い自分で活動できる方が増えたことによって、食事の支援にも幅の広がりを見せている。ホームでは、入居者の力を活かせるよう可能な入居者には食器の手入れや献立の計画など家事の手伝いを取り入れ、それが季節感を活かした献立に反映されていると言える。ともに鍋を囲み入居者同士で互いを気遣いながら楽しむ光景は、家事へ参加できる喜びも感じられ生き生きとした生活に結び付いていることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事量・水分量を把握し、栄養士を中心に栄養管理を行っている。入居者によっては、一口大に刻んだりして、食べやすいように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全入居者に対して口腔ケアを働きかけ、実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全入居者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。心身の状況や時間帯に応じて下着やパットの使い分けも行っている。	職員は入居者の心身の状況に応じた排泄方法を検討し、見守りや声掛けのタイミングを図るなど、安全に排泄できるよう取り組んでいる。トイレ内には冬場は簡易ヒーターを設置し、排泄時の肌の露出に対する配慮を行っている。また、入居者のペースに合わせた声掛けや自分で更衣や後始末ができるような配慮など、動作のまごつきにも柔軟な対応がなされており、快適な環境の整備とともに排泄の自立に向けた取り組みがなされていることが窺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にたくさんの野菜や果物を取り入れている。又、体を少しでも動かすように体操をしたり、個別訓練を行ったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の要望を取り入れながら入浴を楽しんでもらっている。ゆずや菖蒲湯、夏場の夜間入浴も行っている。	ホームでは、安心して入浴できるよう入居者の意向に沿った入浴形態や方法の検討を行っている。入浴拒否のある方については拒否や不安に思う理由を職員とともに検討し、入居者目線で不安の解消に取り組んでいる。また、脱衣室はヒーターを準備するなどして室温を調整し、羞恥心や自立性に配慮した支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けているが、昼夜逆転しないように考慮し、日中の活動量を確保する様になっている。自然に入眠できるように夜にむけての雰囲気作りにも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。通院後は通院記録に記載し、情報伝達出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人に役割や楽しみがあり、それを尊重し日々の生活を楽しく送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者一人一人の状態や希望に応じて、出来るだけ戸外にお連れするように心がけている。個人の意見を聞き出し行きたいところへ行けるように支援している。	ホームは閑静な住宅地の一角にあり、入居者は玄関ホールに設置されたベンチに腰掛けながら自由に外気に触れることができる。入居者の中には手芸用品や菓子類の買い物を希望する方もおられ、個別での対応を行っており、付き添った職員とともにお茶を楽しむなど、柔軟性を持った取り組みがなされていることが窺える。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額はトラブル防止の為所持して頂かないようにしている。お小遣い程度は自由に所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて電話や手紙の対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように写真や季節の装飾品を飾り、殺風景にならないようにしている。不快がない日常生活の音も取り入れる工夫もしている。	ホーム共用空間には入居者が腰掛けやすい位置や高さのソファやテーブルが設置されている。入居者それぞれが思いおmoiの場所で新聞やテレビ、カラオケなど同じ時間を楽しみながら快適に過ごせるよう配慮されている。和を基調とした調度品や飾り付けによって家庭的な雰囲気が醸し出されている。また、談話スペースから広がる笑い声がホームの明るい雰囲気を引き出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや廊下の椅子、玄関先のベンチ等自由に過ごせるような場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談し、使い慣れた家具や見慣れた装飾品、家族写真を等を持ち込んでもらい一人一人の好みにあった環境作りを行っている。	居室には入居者の好みの家具や寝具が持ち込まれ、入居前の住環境をホームでの暮らしに活かすよう環境が整えられている。また、入居者本人が自分のことは自分でできるように家具を配置し、使い慣れた手回り品や家族の写真を置いて入居者が安心して生活ができるよう環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口やトイレ等表示し状況に応じて環境整備に努めている。必要な場所には手すり等も設置している。		